



## 【神の前で今日！どう生きるべきなのか。】

聖書本文：マタイの福音書25章1節—13節/暗唱聖句：コリント人への手紙第二(2Corinthians)6章2節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。コロナウイルスの勢いが治まらず、全国的に緊急事態宣言が出され、なるべく他の地域に移動しないようになっています。特に、今全世界がまるで、14世紀ヨーロッパであったペストの一つの感染症で1/3の命(約7500万人)が失われたような時は違っても、今のコロナウイルスの不安な時を生かされている者として、もう一度主の御言葉に立ち返り、どう生きるべきであるかを共に学び、実践していく全クリスチャンプレイズの信仰の家族となりますよう切にお祈り申し上げます！！ペストの感染症の時に、ユダヤ人たちがなぜか、よく感染されず、守られたことで、後で、ユダヤ人たちが井戸などに、毒を入れたから、ペストが始まったという嘘のうわさの為、後、ユダヤ人たちは、ヨーロッパの人々から、生きたままで埋葬されたり、火で燃やされたりなど悲惨な攻撃と被害を受けますが、実は、そうではなく、感染症の中で、彼らが守られた理由は、ただ、旧約聖書で書いたあった通りに、生活に徹底的に従った結果であることが後歴史を通して分かりました。つまり、ユダヤ人たちは、旧約聖書のレビ記などで書いてある清潔の律法の御言葉通り、徹底的に従って、衣服や手と体をきれいによく洗ったり(食事の前、礼拝の前など)、死んだものや血まみれのを不正なものとし、一切近づかずに、触らなかつたり、食べなかつたりしなかった生活のためペストという死の感染症からよく守られたわけでありました。(出エジプト記19章11、14節、レビ記17:15「自然に死んだものとか、野獣に裂き殺されたものを食べるなら、この国に生れた者でも、在留異国人でも、だれでもその衣服を洗い、水を浴びなければならない。その者は夕方までだけがれている。彼はきよい。」)

今日、コロナウイルスの予防の為、距離を置いたり、手を徹底的に洗う！それは、今の医療者の知恵や話ではなく、実は、もともと聖書に書いてあった神様からの知恵であり方をただ、今も従っているわけでありました！

ですから、愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！神の御言葉を真剣に聞いて、聖書の御言葉通りに徹底的に従うことが、今のコロナウイルスからも我らの身体と共に、心も、魂も守られ、祝福される源であると信じます！

聖書には、伝染病についての御言葉もあります。神様は時には、伝染病(疫病全54回程度記録)を打ち、下しながら神を信じるご自分の民を救い出す為に、敵から守つたり、勝利を与える為にも下したりされた時もありますが、大体人の貪欲、罪、不従順、不信仰によって、罪の報いとして、裁かれる方法として神様が与えて下さったことが分かります(出エジプト記5:3、民数記14:12、エレミヤ書、エゼキエル書等)。たとえ、エレミヤ書では、神の信じるご自分の民たちが、神から離れ、偶像を拝み、神が忌み嫌われる風習と生活に従った時に、ご自分の民にも罪の罰として疫病を下しながら、決して滅ぼすためではなく、悔い改め、新たに神に立ち返れるようにするため、預言者エレミヤを通して疫病を下される神様の姿が表れます。エレミヤ書14章12節に「彼らが断食しても、わたしは彼らの叫びを聞かない。全焼のいけにえや、穀物の捧げ物をささげても、わたしはそれを受け入れない。かえって、剣とききんと疫病で、彼らをことごとく絶ち滅ぼす。」

そして、イエス様は世の終わりが近づけば、このようなことが起されることも教えて下さったことがあります。(ルカ21:7「彼らは、イエスに質問して言った。「先生。それでは、これらのことは、いつ起こるのでしょうか。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょうか。」」)イエス様は、「大地震があり、方々(ほうぼう)に疫病やききんが起り、恐ろしいことや天からのすさまじい前兆が表れます。(ルカ21:11)」と答えて下さいました。

ある意味で、ますます主がふたたび来られる日が、ますます近づいている中みなさんのご存知のように、特に、今日のマタイの24-25章はイエスキリストの終末の章、つまり、終末に対するたとえ話が記されています。

マタイの福音書24章3節を読んで見ますと、ある日、弟子たちがイエス様に尋ねて来て(24:1)、イエスさまの再臨と世の終わりに起こる前兆(ぜんちょう)などについて問いました。

イエスキリストは終わりの時と神様の国についてお話された後、その日とその時間はいつになるかだれも分からないので目をさましていなさいと言われながら、やがて起ころうとする時に、神を信じる人々がどう備え、生きるべきであるかを悟らせるために聞く彼らが一番分かりやすい方法、当時のユダヤ人の結婚の風習(ふうしゅう)をたとえとして言われました。それが今日の本文の10人

## の娘の比喩のお話です。

### <1. イエス様の時代イスラエルの結婚式>

いつかみなさんに御紹介したように今日のたとえ話をもっと分かりやすく理解するためにはイスラエルのユダヤ人の婚礼を知る必要があります。イエス様の時代のイスラエルの結婚式は大体水曜日の夜始まりました。式の場所は花嫁のお父さんの家で行われます。結婚式のその前と後から、大体1週間ぐらいずっとお祝いのパーティを行います。それほど、結婚式は生涯の最大な祝宴の時となります。そして、婚礼の日の夜、花婿が新婦の家に来るまで、特に花嫁の付き添いの女たちは花嫁の代わりに、外で待遠しく待ちます。新郎が新婦の家に着こうとすると、その時、花嫁の付き添いの女たち、彼女らはオリーブ油がはいったともしびをもって花婿を出迎えます。新郎が来る前までは婚礼はもちろん、祝宴は始まりません。そして、花婿が着いて花嫁の家に入ると、宴会もはいはじまり、花嫁の家の戸は必ず閉ざします。夜行われる婚礼と宴会だったため、特に当時は夜、強盗に襲われる可能性があったため、しっかり、新婦の家の戸を閉めなければなりません。新郎新婦は誓約の式をあげ、始まる一週間の祝宴の中で、新郎新婦はまるで、王様王妃様のようにもっとも最高の待遇と歓待を受けながら、みんなと共に幸いな時を過ごします。当時は特に、ローマの殖民地となっていたイスラエルだったので、新郎新婦は、ローマの束縛から、唯一解放され、自由と喜びを満喫(まんきつ)出来る時が、この婚礼と伴う共に宴会の時でした。ですから、生涯の一番大きな幸いな時だったのではないかと十分推測することが出来ます。まるで地上でイスラエルの人々が味わえる天国のような時だったのではないのでしょうか。

このイエス様の当時の背景と婚礼の風習を知れば、今日のイエス様が教えて下さったたとえ話の話がより分かりやすくなりと思えます。今日の本文の内容はみなさんもお存じのように、10人の娘たちが花婿を迎えるために外で、待っていたと書かれています。ここで花婿を待っていた娘たちは、花嫁の付き添い10人でした。ところが、花婿は来るのが遅れます！よく今日の聖書本文を読みますと、最初は10人の娘たちが持っていたともしびの中に10人ともみんな油が入っていたことが分かります！しかし、花婿がなぜか自分たちの考えや期待(きたい)より遅れて着いた時、愚かな5人の娘たちはもう余分の油までそなえていなかったため、ともしびの火が消えそうになってしまいました。借りることもできません。

十分に油を準備する時間はあったのにも関わらず、その準備すべき貴重な時間を愚かな娘たちは寝てしまって、愚かな彼女らが油を買いに行っている間、もう花婿が着いてしまいます。遅かれ早かれ油の用意のできていた賢い娘たち5人だけが宴会に入れ、祝宴の門は閉ざされてしまいました。後でようやく油を準備して持って来て5人の娘たちは、戸を叩きながら、声をあげながらも門を開けてくれるよう懇願していましたが、断られ入るのが許されなかったのは今日のイエス様が語って下さった10人の娘たちの内容であります。

このたとえ話の話の中で、ともしびは信仰のかたち(おもて)で、油は信仰の内容で理解する一番ふさわしいと思えます。油、つまり、信仰の内容はイエスキリストを信じる、迎え入れる信仰あるいは、聖霊による悔い改めと救い、聖霊の満たしとも言えるでしょう。花婿はイエスキリストを意味し、娘たちは主に従っている人々を意味しています。

### <2. 本文の10人の娘のたとえ話の教えと教訓>

今日の御言葉を通して教えられる点いくつかあります。何でしょうか。

#### ① <自分の信仰で救われる！>

まず、9節によると、愚かな女たちは、賢い娘たちから油を借りることが一切できなかったところ。つまり、自分の信仰を他の人  
にあげるのも、もらうのもしできないということです。ローマ人への手紙1章17節のように自分の信仰によって救われます。もちろん、  
他の人の信仰のため祈るのはできますが、他の人の信仰によってとか、自分の信仰によって他の人を救うことができないというこ  
とをまず覚えて下さい。「12しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権  
をお与えになった。13この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたの  
である。(ヨハネの福音書1章12～13)」

救われる信仰、それで神の子どもとされ、神の御国に入れる信仰は！血によるのではない、つまり、血縁関係(クリスチャンホーム

出身など)血によってではなく、血縁関係によって神の子になることは決してできないのです。父親、母親がクリスチャンだから、自動的になるのか。そうではない。血のつながりによっては、神の子になることはないと教えて下さっています。

肉の欲求、人の意欲もないというのは、人の努力(つまり律法を守ること)、肉の欲求とは、自分のがんばり、努力、律法を守ることと得られることではない。自分はこんなにながらんでいるから。とか、そういうことで、救われ神の御国に入れるわけではないという意味です。神の祝宴が開かれている神の御国に入れるためには、人が神の子どもとならなければ、なりません(家族、親子関係になる)！そうするためには、我らの新郎であられ、救い主イエスキリストを自ら心に迎え入れ、受け入れなければなりません！

コロナで大変な時期で、もう一度、ご自身の信仰を確かめる時となりますように！願わくは、みなさん、我らの教会に通っている全ての信仰の家族一人一人、我らの子どもたちに至るまで、みんなが、心の扉を開き、来られたイエスキリストを迎え入れ、神の救いを頂ける全神の家族となりますように、

## ② <今！今日！準備をしなければならぬ！>

また、5節によると、花婿である主イエスキリストをいつ来るのか、迎えられるかその時を、どちらとも、だれでもわからず眠っていたことです。つまり、いつでも我々が主を迎えるようにならなければならないということなのです。主を出会える日、救い主を迎えられる日を今、今日すぐにしなければならぬ意味です。自分の救いの備えの日は、後で、今度、後回しにしてはいけなことを教えて下さっているのです。コリント人への手紙第2章2節「神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」我々の人生の日がいつまでなのか、分からない為、だから13節に目を覚ましていなければいけなことを警告して下さいます。

本文10-12節によりますと、遅れてしまつて失つたその機会は再び決して来ないということです。後で愚かな娘たちも何とか油を持って来ましたが、間に合いませんでした！祝宴の扉が閉まると、いくら願つても決して入ることが許されなかつたことを忘れないようにしましょう。いくら後悔しても時間を、機会を取り戻すことができません。もう遅かつたのです！また今じゃなくても、また今度！チャンスがあると思つてはいけません。今！今日！与えられた機会を大切につかまなければなりません！神様の前でやりこなすべきことをまず最優先にやらなければなりません！神が今自分に与えて下さつたチャンスとして大切に受け取らないといけません。後では機会はありませぬ！遅くなる前に新郎なるイエスキリストを迎えられる機会を見逃してはいけなという意味なのです。第二コリント人への手紙6章2節で使徒パウロはこう我らに強調して下さいます。“神は言われた。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みのとき、今は救いの日です。”神様が下さつた今日！今の時間！を大切にしていきたいましよう。

今日のこの御言葉の要点は“あなたは今主と迎え、出会う予備しているのか、準備できているのか。”です。もっと考えられるのは必要な油は今のうちにだけ用意しなければならぬということなのです。

神の前で、人生の賢い者は自分の立てた人生の計画ではなく、神様のご計画と御心に焦点を合わせます。みなさん、賢い娘たちとおろかな娘たちの共通点があります。それは花婿がいつ来るのかが分からなかつたということなのです。

## ③ <どうして花婿なるイエスキリストは遅く来られたのか。>

### #神様の絶対主権・絶対時間の為#

もし私たちが待つ側になっているならば、このように不満なことばがすぐ出そうではありませんか。

“予定より遅いのであれば、到着の時間だけでも教えてくだされば、いいのに。。。どうしてこんなに遅いの。いつまで待つべきなのよ。私がかくわ立って通りに従つてくれればいいのに。今ごろ！今来たら、一番適期(てつき)なのに。遅すぎるから、もし今日は来ないんじゃないかな。今までも来ないなら、とりあえずしばらくは絶対来るはずはないね。今は適当に自分勝手に、疲れてるからもう寝よう。来れそうなら、準備しても遅くないだろう！”

このように我々は信仰の生活においても私たちは忙しく立ち回りながら、よく自分のあたまと経験上、自信の計算に頼つてすべてを汲(く)み取ろうとする時がしばしばあると思ひます。神様にはただ最後の、決裁(けっさい)の印鑑だけを要求します！まるで、自分の行動や考えは言うまでもなく、自信で全部設計正しいかのように組み立てて、決めつけて、それがまるで神様の御心かのように

思い込み、振舞うのです。

神様の方法は私たちが自分たちの計画を神様に提出して、神様の祝福を頂く事ではありません。神様が今日のこの御言葉を通して神様は私たちに教えて下さっているのは何でしょうか。それは人生に対する神様の絶対主権を心から認めること、そして自分の考え、期待、計画、思いと違っても、神を最後まで信頼し神に合わせ従いの信仰ではないでしょうか。遅れて来る事も主の次第ですから、主が自分に合わせるのではなく、我々がキリストに会わせて、賢い娘たちのように、いつでも主を迎えられる十分な油を準備しているのを主は今も我らに望んでおられると信じます。愚かな娘たちが、自分の計算で、計画で、準備した物ではなく、主の御心通りに十分な油の用意をすべきである！ そうしなかったので、主が開いた祝宴に入れないように命じられることも全的な神様の主権なのです。神様は私たちにこう言われるかも知れません。“私はあなた方が決めた通りにしない、私はあなた方が決めた時間ではなく、私が決めた時に行く！”もしかするとあなたが寝ている間夜中になるかもしれない。だから、あなたはいつでも目を覚まして待ち備えをしなさい！私は私が良しとされたときに現そうと。だから、いつ私に主が来られても、我らが主の前に立たされるようになって、恥ずかしくないように真心を持って待ち望んでいなさい。”

神様は今も結婚式自体より、結婚するにふさわしい愛、花婿をむかえられる姿勢をもっているかどうかにもっと大切にされるからです。不思議なことに、ある人には主を迎える時がとつても早すぎると思われる人もいるかも知れません。油の準備が出来なかった娘たちにとっては新郎が来るのに、あんまりにも急で、早すぎると思われたでしょう。しかし、ある人には神様は私たちに忍耐を求めます。ある時にはなされると約束されたにもかかわらず、なかなか長引(ながび)いてしまうような耐え続かなければならない時もあると思います。新郎がいつ来られても、いつ主の前に立つことになっても、もう十分な油の備えをしている為に、その人は、「主よ。いつでも来て下さい。いつでも私はあなた様を待ちのぞんでいますから。」と祈りつつ、賢い娘たちにとっては、まるで時間が長引いているように感じたかも知れません。

今も生きておられる公平の神様はだれも油を備えられる十分な時間(一度の人生)を与えて下さいました。賢い娘たちと愚かな娘たちにも、今日の御言葉の内容をよく読んで黙想して見ますと、神様はどちらにも差別なく、区別なく、同じく十分出来る時間、環境、機械を与えて下さったことが分かります。

問題は花婿を意味していたイエスキリストではなく、甘く考えてまだ後でも大丈夫だと油断し、自分たちに一番大切な事を後まわしにしてしまった愚かな娘たちの問題だったのではないのでしょうか。

このたとえ話を何度も読み続け、黙想しながら、悟らされたことがあります。それは私たちが祝福される秘訣は、自分の立てた計画の事と自分の決めた時ではなく、いつも神様の定められた時に合わせて、神様のご計画に合わせてしたがって行うことであることでした。今日このたとえ話で、花婿がどうして遅れるのかは知られてありません。今日のこの賢い娘と愚かな娘たちのたとえなしを通して神様は私たちにいつも余分の油を用意して置くように教えて下さいます。賢い娘たちも、愚かな娘たちも花婿がいつ来るのか、そのときを全然知りませんでした。

彼女らの姿勢は花婿がいつ来るか来る時を知ることはありませんでした！世間の人たちと異端の新興宗教たちの中では多くこの世の終わりの時！が具体的にいつなのか集中し、多くの関心を見せます。しかし、聖書が教えて下さっている正しい終末論的な信仰というのは終わりの時はいつなのか分からないので、それではなく、今日！今！与えられた時を神様の御前で、どのように生きているのかに、フォーカスをあわせるべきことであります！！

賢い娘たちの知恵はいつ花婿が着ても問題なく、迎えるように用意しておくことでした！！それを一言で言いかえりますと、今日！今が神様の御前で許された自分の人生の最後の日のように！主から与えられたもっとも大切な日のように！イエスキリストを迎える準備がみなさんは、ちゃんとできているのか。今の時が！今日が！主から許されている機械として、最後のチャンスのように、神に立ち返り、御心のままに、キリストを迎えることが出来るように！ではないでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！もしも今日一日が神様がみなさんに許して下さいました最後の日であるならば、みなさんはどう行きたいですか。何をしたいのでしょうか。もしもではなく、本当に今日がみなさんに神様が下さった最後の日、ラストチャンスであるんだしたら、みなさんはどうしますか。今の時を、今日と一日を主の目の前で！神様が下さった最後の時間のようには我らは受け止めなければなりません。

## #一人でも救われるのを望まれる神の深い愛と哀れみのゆえに#

愛するみなさん！しかし、信仰ある我々が違うべきでしょう。主を迎えるのに、今日！今の時間を誠実に、忠実に、惜しみなく生きるべきでしょう。意味ない自分のプライドを捨てて、人の目に気にしないで、今も、我々のすべての知っておられる神様の御前で何も隠すことなく、真剣に悔い改めてすべての罪が赦される日となりますように！神の救いの確信を自分の救いとして確かめられるように切にお祈り申し上げます！！

そして、今日が神様がくださった最後の時間だったら、今みなさんの周りにいる愛すべき家族や周り人たちにも関心を持って見るべきです。今日主を迎える日として、すべての人と関係を振り返り、自分が傷つけた人に今、今日行って、心から赦しを求めましょう。自分に傷つけた人も抱いてあげながら、心から赦してあげましょう。すべての人と和解する一日となりますように！愛するべき人を今日もみなさんの胸で、みなさんの温かい手で、抱きしめてあげてください。そして、愛すると、赦して下さいと言える和解の日となりますように切に祈ります。

マタイの福音書24-25章に書かれている、真に終末論的な信仰は、今日一日が主を迎えられる最後の準備の日であると信じ、その信仰にふさわしく、主の前で恥ずかしいところがないように、忠実に生きることあります！！

もう今日がこの地上での私たちの人生が終わりなり、主を迎えることになるんだしたら、主にすべてをゆだねられないことがあるのでしょうか。主の御前で赦せない人がいるのでしょうか。真剣に悔い改めることが後回しに出来るのでしょうか。愛せない人がいるのでしょうか。

**愛する信仰の家族のみなさん！我々にまだ主が下さった希望があります！**

**今も遅いではありません。主は今も、再び来られる日を伸ばして下さっている理由！！**

**今日も我らの命を生かして下さっている理由！！はなぜかご存じでしょうか。**

**一人でも、まだ主が望んでおられる通りに、救われる準備、赦される準備、主の御前で恥ずかしくないように整えられるように機会を与えて下さるための神の愛と慈しみ深さのゆえではありませんか。今日の一日は神様が我々を救おうと、回復させようと、主に戻れらせるようにするために、下さっている最高の機会であり、十分な時間であることを忘れないで下さい！**

神様は今までどんな人にもいつ来られるとあらかじめ知らせて下さらなかったわけがここにあるのです。もし花婿が来ることをすでに知らせて下さるならば、花婿が来る直前までこの世は地獄になってしまうでしょうか。人はみんな自分勝手にして、来られる直前のタイミングで油を用意しておいてもいいでしょう。そうなると、油なしに生きていられそうな信仰的空白(くうはく)、罪の隙間が出てしまいます。今日の本文の13節では、“だから、目を覚ましていなさい。あなた方はその日、その時をしらないからです。”とイエスキリストはおっしゃってくださいました。神様がその日、その時を私たちに秘(ひ)めて知らないようにされた理由がいつも目をさまして生きようとするためでした！

反面、今日も、本当に残念なのは、多くの人々は自分の信仰のための油を用意する時間がまだまだ十分であると勘違いしています。そのような考え方をもって信仰の表の形を意味するとしびだけは、よく身につけましたが、内側の油の準備は後回しにしてしまわないように共に気をつけましょう。

### <④今日聖霊の油注ぎがあなたの上に豊かに注がれる一日となりますように！>

クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

今日の御言葉は未信者にではなく、神の信じる者たちに、教会のクリスチャンたちへのメッセージであることも覚えて下さい。

イエス様はただ、5人のクリスチャン娘たちと5人のノンクリスチャンの娘たちに言われてたのではありません。この10人のわかい娘たちは婚礼の宴会にてとても大切な役割をもった人たちでした。

今日のこのたとえ話は信者にたいするメッセージでもあります。すべての信徒たちは信仰の生活の始まりに油を頂きます。イエス様を信じ始めたごろの主の愛と救いの恵みに満ち溢れその感激と喜びの中で豊かに満たされた信仰の生活をしていたと思いません。しかし、今みなさんの中でいつからかその信仰の火の油、愛の油の火が少なくなっている状況であるか、もしかしたら消された時が大部前から進んで来ている方はいませんか。(黙示録2章4-5節を読んで見ましょう。)みなさんは最近祈りの答えを体験し

ているでしょうか。神を体験し生きた証しが最近ありましたか。イエスキリストは我々にこうおっしゃると思います。“クリスチャンになることだけで充分ではなく、日々聖霊の火で満たされなければなりませんよ。”と。居も主の御前で、自分は今余分の油を充分にもっているのでしょうか。すぐ消されそうな直前ですか。今日自分自身をよく探って見て、主の前でへりくだって、もう一度聖霊の油注ぎがみなさんの上に豊かに注がれ、満たされ、回復されて行けるように切にお祈りします。

最近の自分の信仰の生活を振り返って見ましょう。油を頂ける時があります。今がその時です。今日が満たされる時です。今こそ、主にあって回復される時です。

賢い娘たちもちろん、油の余裕分までも準備して置きましたが、彼女らも愚かな娘と同じように一時期、眠っていた時もありました(5節)。この御言葉で我々は慰められます！我々も時々失敗する時もあります！倒れる時もあり、眠ってしまい過ちを犯してしまう時もあります。罪を犯す時もあります。しかし、愚かな娘と違ったところを今日しっかり覚えて起きましょう。

賢い娘たちのように、事前に、いつも、準備できる時にしっかり準備をしておきましょう。

ですから、今日一日を我々のため延ばして下さっておられる主の御前で我々の心が真心で神様に向かって今のありのままの自分の姿で何も隠せず、すべてをさらけ出して真剣に悔い改め、主に委ねる時今もみなさんの上に主の油を注いで下さると信じます。

“主よ。私がいつもあなたの油と生ける恵みと力が注がれる入り口にいつも立てられているように助けて下さい。今キリストを迎え入れ、聖霊の満たしの中で、主と共に歩み、いつでも神の御国での祝宴に入れるように私を備え、助けて下さい。”

主から許された今日一日を、今の時に、救い主なるイエスキリストを迎え入れ、神の救いの確信と喜びの感激を取り戻す一日となりますように、これから改めて主と共に歩みながら、聖霊の油注ぎによって満たされた恵みの日々となりますように、いつか、この人生の旅路を終えて、父なる神の家で開かれる祝宴に入ることが出来る全クリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

